

さあ、実験しよう。もっと化学の話をしよう。

高校化学グランドコンテスト実行委員会事務局長
芝浦工業大学工学部応用化学科
教授 堀 顕子



「化学はバカにはできない、されど、バカにならなければならない」

どんな学問であっても（たぶん人生というものも）なかなか難しいものであり、無駄や失敗を恐れ、他者との比較が先行して体が動かないことがあります。化学を通して、自分の無知と技術不足を感じながらも「まあ、無駄でもバカみたいでも、やってみるか」と腹を括り、目先の損得を忘れて手を動かすと、ふと視界が開け、自分が分からないことが意外にも共通の課題で研究のシーズになることや、人とのつながりへと発展することがあります。年を重ねるごとに、進路を決めた際に言われた先の言葉の真意を実感し、この変化の激しい時代だからこそ「バカになる」ことの必要性を感じています。

高校生の皆さん、「高校化学グランドコンテスト」は学力や記憶力を競うものではありません。きっかけは部活動でも学校の探求課題でも良いですし、高校進学前からじっくりと取り組んできた課題でも、突然の閃きでも良いと思います。化学を通して自らの手を動かして、真剣に自然科学に向き合った中で何かしらのオリジナルな気づきがあるのなら、それを全国の仲間に向けて、大学や企業で化学を生業とする先輩たちに向けて話してみませんか。私たちはもっと化学の話をしましょう。皆、化学が好きなのですから！

ご関係者の皆様、伝統ある本コンテストを2023年度より本学が継承し、本学の特色も盛り込みながら新たに立ち上げることを決意しました。これまで高校生のためにご尽力いただいた皆様に心より敬意を表し、また我々に託して下さったことにお礼を申し上げます。このお話を受けたときは不安もありましたが、多くのご支援をいただき、また大変忙しい学内外の先生や企業の皆様方からも「やりましょう、ワクワクするね！」とのお言葉をいただき、大変心強く思っております。化学は理工系分野の中でも「ものづくり」の根本を支える学問です。人々の暮らしを支える素材や製品の全てに密接に関わるとともに全国の優れた化学系企業が高卒から大学院卒までの幅広い人材の受け皿になっています。高・大・産における継続した若手育成は未来の持続可能な技術基盤と社会構築に必要不可欠です。事務局一同、改めて本コンテストの実施と更なる発展に向けて努めますので今後どうぞ忌憚なきご意見と温かいご支援をよろしくお願い致します。

